

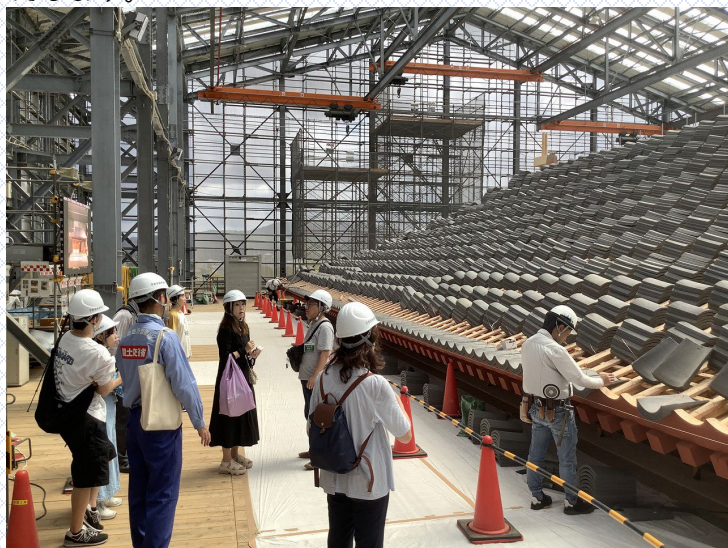


平城宮跡・東楼復原工事 現場だより 第24号

「時を営む、時を繕う」 奈良時代を今に感じる 伝統技能の継承現場

～大好評！ミニガイドツアー開催中！～

1名から参加が出来る「東楼の魅せる！現場 ミニガイドツアー」を祝日（※注）に開催しています。
 令和6年9月は16日（5家族）、23日（12家族）の参加がありました。
 団体向けの見学会とは違ったリラックスした中で、個人、ご家族のペースで東楼の工事現場の舞台裏をご案内いたします。



現在、現場では瓦工事の真っ最中！ 工事が佳境を迎えており見どころ満載です。



金具や瓦の展示などもご覧いただけます

平城宮跡・東楼 復原工事

時を営む、時を繕う（ミニガイドツアー）

※注 ミニガイドツアーは、個人・家族向けの現場見学会です
 開催は、祝日に現場が稼働している日のみ実施します。次回は10月14日予定。
 （ミニガイドツアーは令和6年11月まで開催予定）

「建物の復原特徴」をご説明します。

現場内の1階では、楼閣の屋根、上層の床を支えるために柱は掘立柱（地面を掘って柱を建てる）と礎石建（石の上に柱を建てる）併用の特徴ある構造のまま復原に取り組んでいます。また外周の柱は高さ12m（4階建ての建物相当）の巨大な通し柱（樹齢200～300年。産地は奈良、三重、和歌山などのひのき）、現場内の各所では瓦の文様、鴟尾を間近でご覧頂けます。伝統技法と現在の安全性を満たす構造のご説明を致します。



平城宮跡・東楼復原工事 現場だより 第24号

「時を営む、時を繕う」 奈良時代を今に感じる 伝統技能の継承現場

～時営む、時を繕う（現場担当者コラム）～

「池もなく、やり水もなき所に、石を立てる事」

白砂で「幾何学」模様を描く。
枯山水における「水」。

一個の石、一粒の砂が、山や島、水を表す
究極の「象徴的な思想」と研ぎ澄まされた造形技法により
「廣大無辺」な自然を作り出す。

古来から、庭は「自然」をテーマに、
海岸風景をイメージして作られてきた。

池は「海」を表し、島をつくり、荒磯を表す石を立て、松を植える。

こうして名勝を再現してきた。
故に、庭は「山水」の呼び名もあった。

枯山水は「枯と山水」。

木や島、水がないのに庭になる。
脳が捉える「象徴の世界」。それを具現化した。

京都の庭だけでなく、現代は皆がスマホを手にするたび…
そんな世界を手になっている。

京都の事務所から、現場の奈良に行く度
そこには、現物の現実の世界を感じます。

京都と奈良。違う魅力がそこにある。

ご興味がある方は平城京跡・東楼の
ミニガイドツアーまで



京都市内の建物例
(丸太町駅前)



宮大工



瓦工事



塗装工事

～※東楼の「魅せる！現場（10名以上の団体向け）」は、新規受付を終了しました～

奈良時代の前半、平城京の中心施設であり重要な儀式に用いられた第一次大極殿院。かつての姿を蘇らせる為に行われている現在の東楼の工事現場の舞台裏の紹介の他、飛鳥時代から江戸時代までの貴重な瓦や鴟尾の他、多彩な飾り金具などの展示も同時に見学が出来ます。10名以上の団体向けで開催をしておりましたが、開催可能日の全てに予約が埋まりましたので本事業での新規受付は終了致しました。